

船舶事故調査報告書

平成28年1月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成27年2月15日 07時30分ごろ
発生場所	香川県小豆島町小豆島大角鼻南東方沖 大角鼻灯台から真方位120° 500m付近 (概位 北緯34° 25.9′ 東経134° 20.5′)
事故の概要	プレジャーボート竜王丸2は、潮流に抗して機関を使用して停留中、また、プレジャーボートロックカントリーは、漂流中、両船が衝突した。 ロックカントリーは、右舷側船首外板に擦過傷を生じた。
事故調査の経過	平成27年3月3日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 竜王丸2、1.0トン OY3-20554（漁船登録番号）、個人所有 第271-19328号（船舶検査済票の番号） B プレジャーボート ロックカントリー、5トン未満（長さ7.59m） 242-24624兵庫、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A なし B 右舷側船首外板に凹損を伴う擦過傷
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 西南西、風力 2～3、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の末期 日出時刻：06時48分ごろ
事故の経過	A船は、スパンカーを展開して西風に向首し、東方に向かう潮流に抗して機関を使用し、対地速力がない状態であった。 船長Aは、船首方に接近するB船を認めたが、ふだん釣りを行っているときには、他船がA船を避けてくれていたので、B船もいずれ避けてくれるものと思い、釣りを続けていた。 B船は、西風を左舷正横に受ける態勢で風潮流によって東方へ圧流されていた。 船長Bは、フライングブリッジで魚群探知機を見ていたとき、右舷方約50mの所にB船に船首を向けているA船を認めたが、A船も漂流しており、接近することはないと思い、A船から目を離して漂流を

	<p>続けていた。</p>
分析	<p>A 船は、停留中、船長 A が、釣りを行っていて B 船に対する見張りを行っていなかったことから、B 船の接近に気付かなかったものと考えられる。</p> <p>B 船は、漂泊中、船長 B が、A 船も漂泊しているものと思い、A 船に対する見張りを行っていなかったことから、A 船に向けて圧流されていることに気付かなかったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、A 船の船長 A 及び B 船の船長 B が共に相手船に対する見張りを行っていなかったため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常時、適切な見張りを行うこと。